



昨夜

十郎



比賣鑑紀行卷第十四

紀行卷第十四目錄

王孫賈母 我國策

五陵母 史記

楊烈婦 解頌採條

孝義保 列女傳

節乳母 同上

馮昭儀 漢書

周自忠妾 列女傳

省張潤二妾 解頌採條



姜榮小妾 同上

花雲僕婦 同上

張統子婢 同上

比賣鑑紀行卷第十四

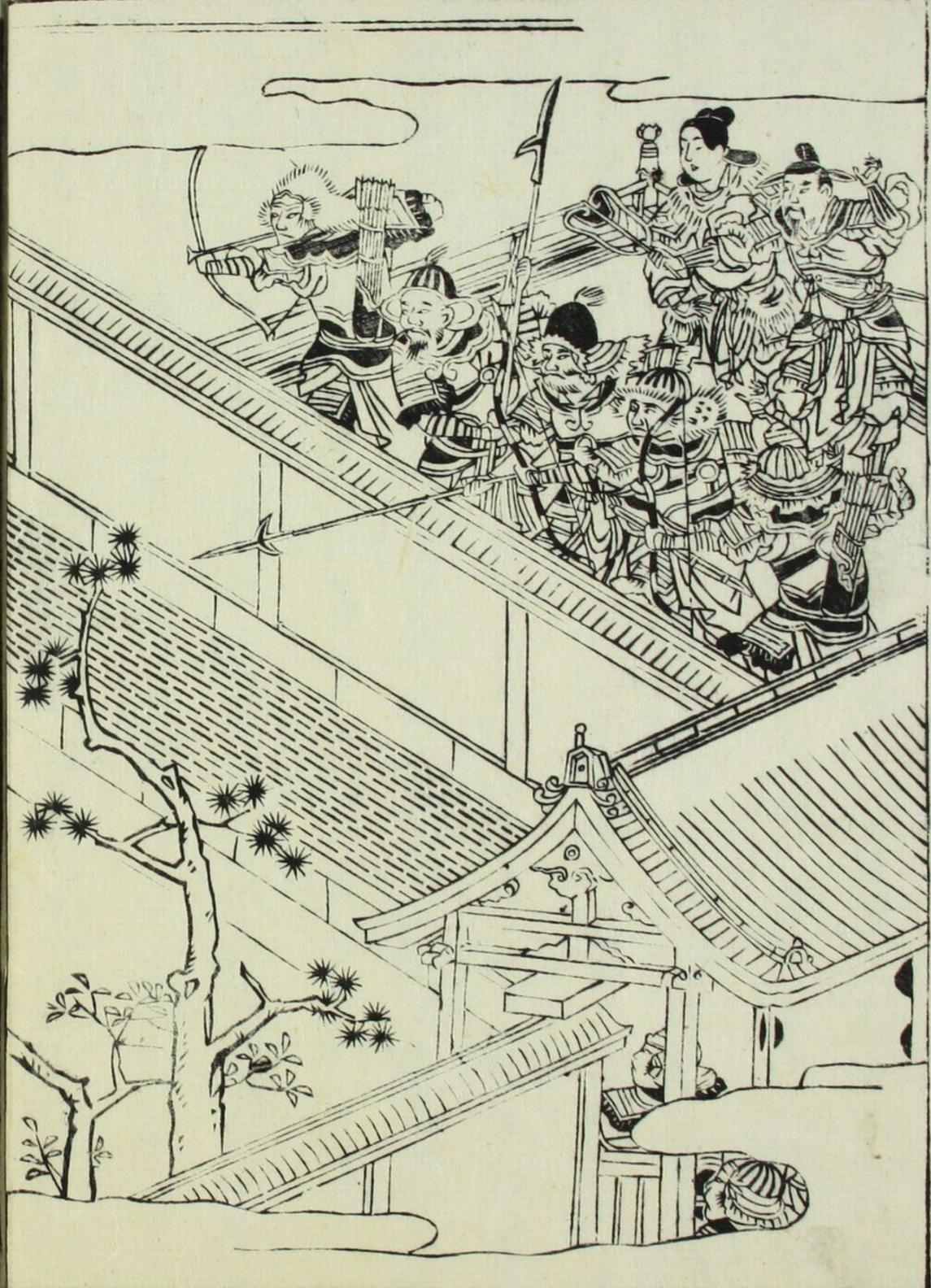
紀行第十四

ひまのよの君のあめよとほくし義をほむりき  
ゆらあめよとほくしふ学明梅の君は此  
君の事もいなりおあつかり

いあ(舟)の因(因)の時燕(燕)のあより舟をとりなちり  
因(因)もあつかりあひかりあつかりは海(海)のあつかり  
て因(因)もあつかりあひかりあつかりは海(海)のあつかり  
あつかりあつかりあつかりあつかりあつかりあつかり  
あつかりあつかりあつかりあつかりあつかりあつかり







らうくゆめんりも我らふもあつてはあははかりか  
かふふがくばいふかきりたれば後人あはふが  
してあひまぐふ李流くあふあふてくらく歌く  
うらあてゆめんものより海一費とあふ人村も功も  
一もんものより後たつてあふ人とあつて軍兵  
百人とあつて李流くあつて城もあつて揚氏もあ  
つて飯飲して共狼とあつてあふあふ李流くあつ  
てあつてあのが後よらんよ揚氏もあつてあつ  
てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ

うあゆりてあつてあつてあつてあつてあつて  
又いふとあつてあつてあつてあつてあつてあ  
つてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ

の人び烈婦と稱したり

いみじく魯の孝女保とていふ一魯の孝女保也  
保母とめたりとて魯の孝女保とていふ一魯の孝女保也  
おがかりり中より一魯の天子乃みくとおりま  
しゆは中のいひ世とていふれと魯とていふ孝女  
いらし保とていふれとてわたりとて魯氏のやりあ  
りし女房そのおははれりていふれとて魯の孝女  
よらしていふれとていふれとて魯の孝女保とていふ  
よ保母とていふれとていふれとて魯の孝女保とてい  
つとていふれとていふれとて魯の孝女保とていふ

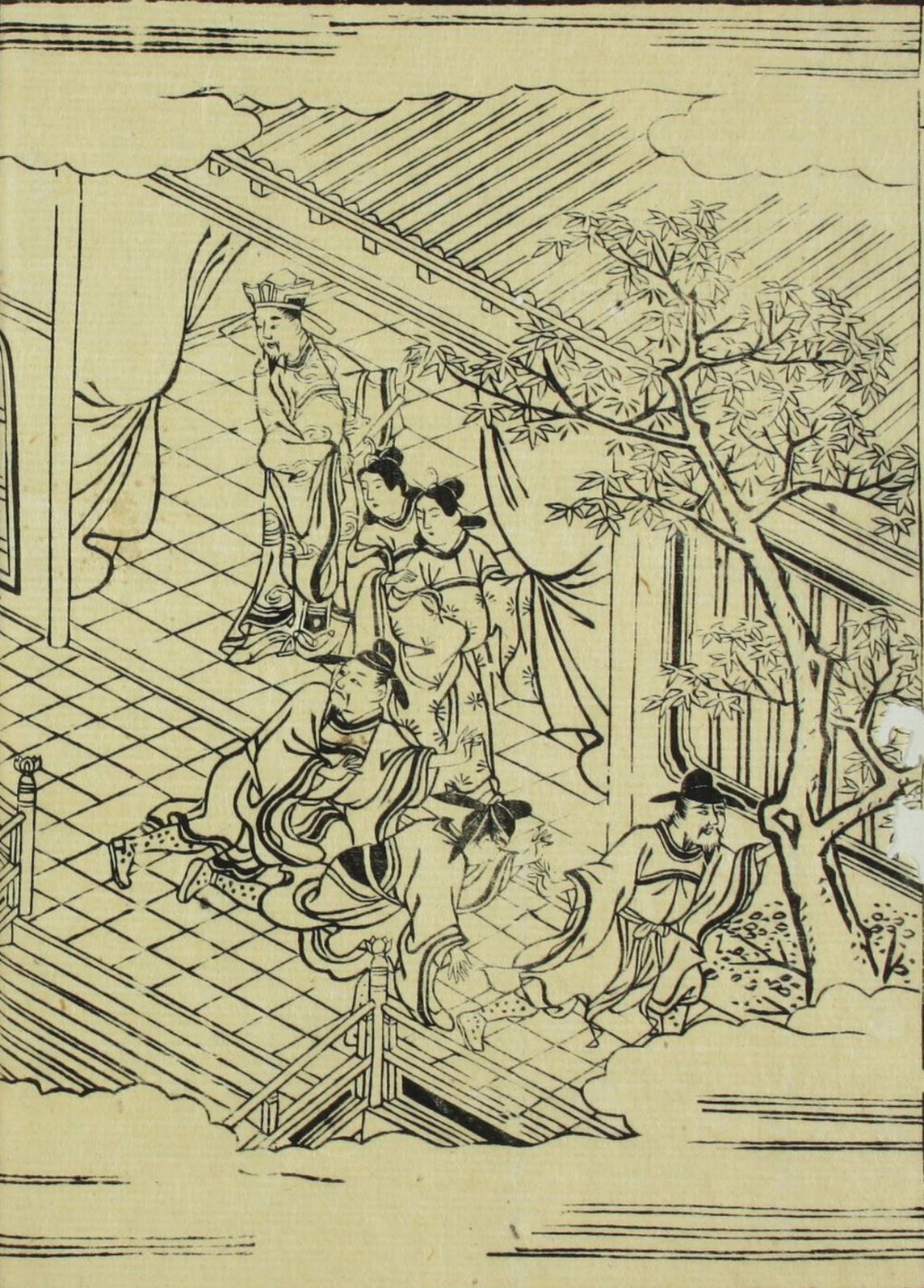
ま中しとていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
とていふれとていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
れく伯沛の孝女保とていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
のおち保とていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
たれが事とていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
おととていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
どのお保とていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
たまはる子の保母とていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
らうの魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と  
とていふれとていふれとて魯の孝女保とていふれとて魯の孝女保と





おかしき事いふつゝあはれおぼく金あがりてはさる  
 ていさなあひくればすからら建婦の位よりがされま  
 りまよぶあはれおぼくはあはれいけまのあはれを  
 築くろよ然いふめりあはれおぼくは救の欄干よよ  
 づのかりえれおぼくはあはれい一男女をれまげおぼく  
 けまろよおぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 まおぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 みまおぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 あはれおぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 おぼくはあはれおぼくはあはれいけ

とほうせらり一ありとやされば敷威たのめあはれ  
 けおかしき事いふつゝあはれおぼくはあはれい  
 けおかしき事いふつゝあはれおぼくはあはれい  
 むのぞきされたりとやされば敷威たのめあはれ  
 とほうせらり一ありとやされば敷威たのめあはれ  
 いまおぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 おぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 ろよおぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 おぼくはあはれおぼくはあはれいけ  
 おぼくはあはれおぼくはあはれいけ









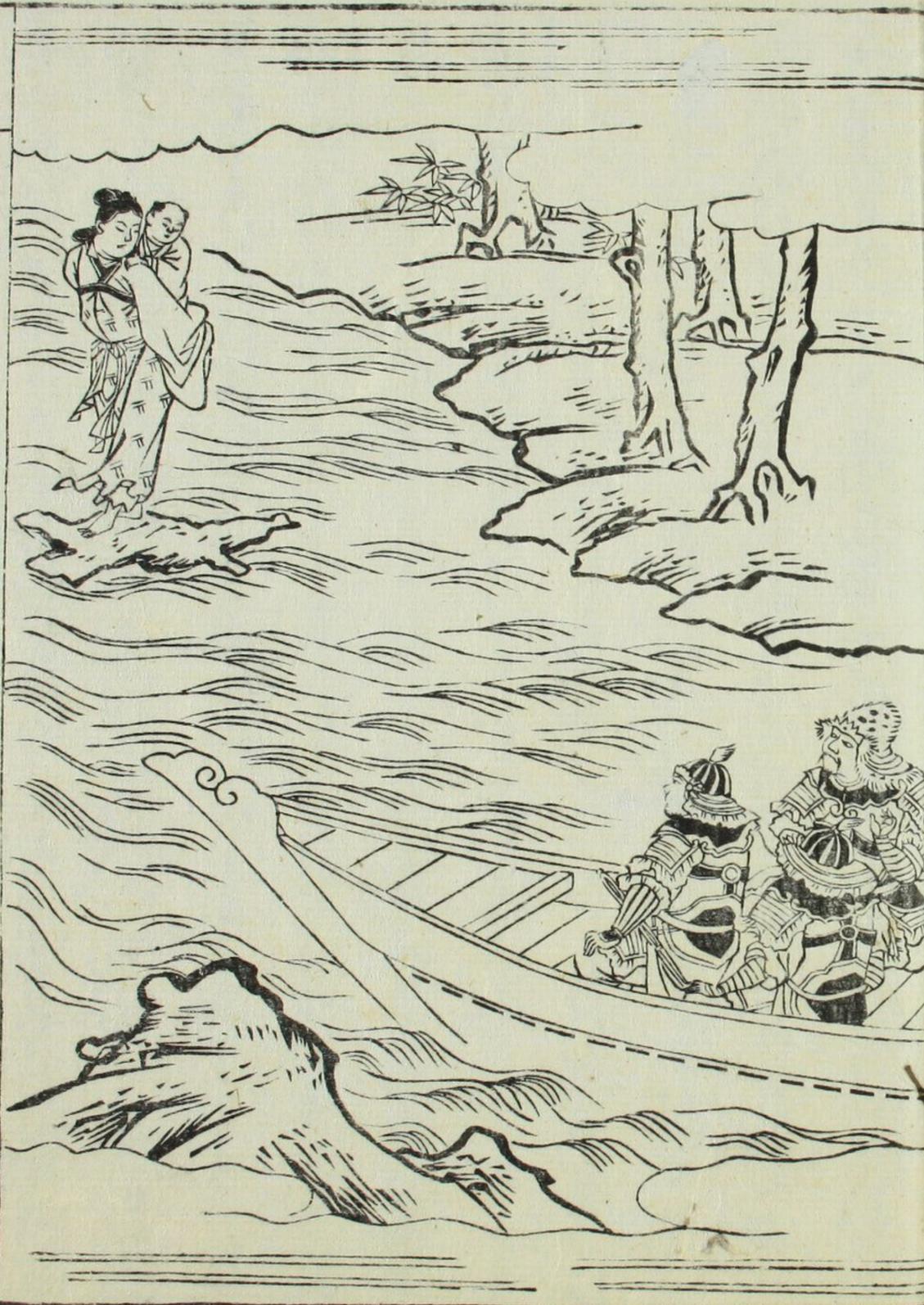
て世よりりりりそのずよ一ん天よきありて天の  
 るゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 うはるんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん  
 つまじつ二舞の一人ははははははははははははははははははは  
 むじふもくとてはははははははははははははははははははははは  
 ぎげーててててててててててててててててててててててて  
 りよふこのてなせたらなせたらなせたらなせたらなせたらな  
 とんよははははははははははははははははははははははははは  
 かつてははははははははははははははははははははははははは  
 ゆくとららららららららららららららららららららららら

眼のとて陽列の通判なり一美栄が妻は雲貴氏の  
 女ありのらららららららららららららららららららららら  
 城とせむらゆありてててててててててててててててててて  
 云々の下と雲貴氏ありてててててててててててててててて  
 むせむらるふされど織兵ははははははははははははははははは  
 およびててててててててててててててててててててててて  
 て美栄ともむらぬとててててててててててててててててて  
 へててててててててててててててててててててててててて  
 すくじやうくーてのぐーをのつてててててててててててて  
 らららららの下はははははははははははははははははははははは

非監録

十一

ふけらぐ湯引へくことぞなるべしなむかへりかむは  
 めーらわれの中は盛<sup>ハ</sup>勢<sup>ハ</sup>ふりやまの御<sup>ハ</sup>入<sup>ハ</sup>り  
 實<sup>ハ</sup>氏<sup>ハ</sup>うたはよひけるい盛<sup>ハ</sup>氏<sup>ハ</sup>がよふんをうたは  
 あまびらめびんくわんてまごうてしおのあひかぬ  
 湯引へばも中へいあひくがまもむりくしなるが  
 ちしむむのれれとあはるんさしきれにぬらんちか  
 てそのころかまふまふくまふまふのさしき  
 ふいれいあひくあひくしてはらり<sup>ヤ</sup>れ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>  
 ませやんてあひかりあひくへのあはりのこれの  
 うくつもあまあ入我いあひくしき<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>織<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>



如鏡卷前四

終(廿五)





よ孫氏まゝにやゝと諸人の書して是人の名もあはせ  
 うまはのわきんぐうらうとゆゑとなく死するなり  
 といひしはたぐんどもあはれの子とたそふんとのいひ  
 とりきりあはれ神明の擁護あはれとてかぐれ乃  
 んよらにありありの自よ母の愛ありけりこれ  
 ねあはれありけり此種もて人よありと人よ  
 あやとて感歎しけりあり  
 喉の張弛さうさうとありけりありて氣節とたう  
 とくありとて大和は人々のうち建文素のといひ  
 東の布政使よあはれとておはれ建文素のいひ  
 つまみかしてききとて事なるといふとこれと

ち家とらふ天下これとて入つと法統とせしむべし  
 もらつとせしめられけり又法統とていふのりて  
 乃あはれとていふは事なるといふとけりあり  
 といひしはたぐんどもあはれの子とたそふんとのいひ  
 とりきりあはれ神明の擁護あはれとてかぐれ乃  
 んよらにありありの自よ母の愛ありけりこれ  
 ねあはれありけり此種もて人よありと人よ  
 あやとて感歎しけりあり  
 喉の張弛さうさうとありけりありて氣節とたう  
 とくありとて大和は人々のうち建文素のといひ  
 東の布政使よあはれとておはれ建文素のいひ  
 つまみかしてききとて事なるといふとこれと

乃と記ありていづもはつたてに  
 といふことなるにあらざらん  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと  
 なるにあらざらんといふこと

比賣鑑紀行卷第十記

比賣鑑紀行卷第十記

紀行第十記

弟橋姫 日下紀

和押重女君

上毛野形名妻 同上

去肥実平妻

副将乳母

瓜生判官母 瓜平他

北須五郎母 同上

松田御監妻

奥村助五郎の妻

孝田丸太衛門の母

比美大濫紀行を才女

紀行才女

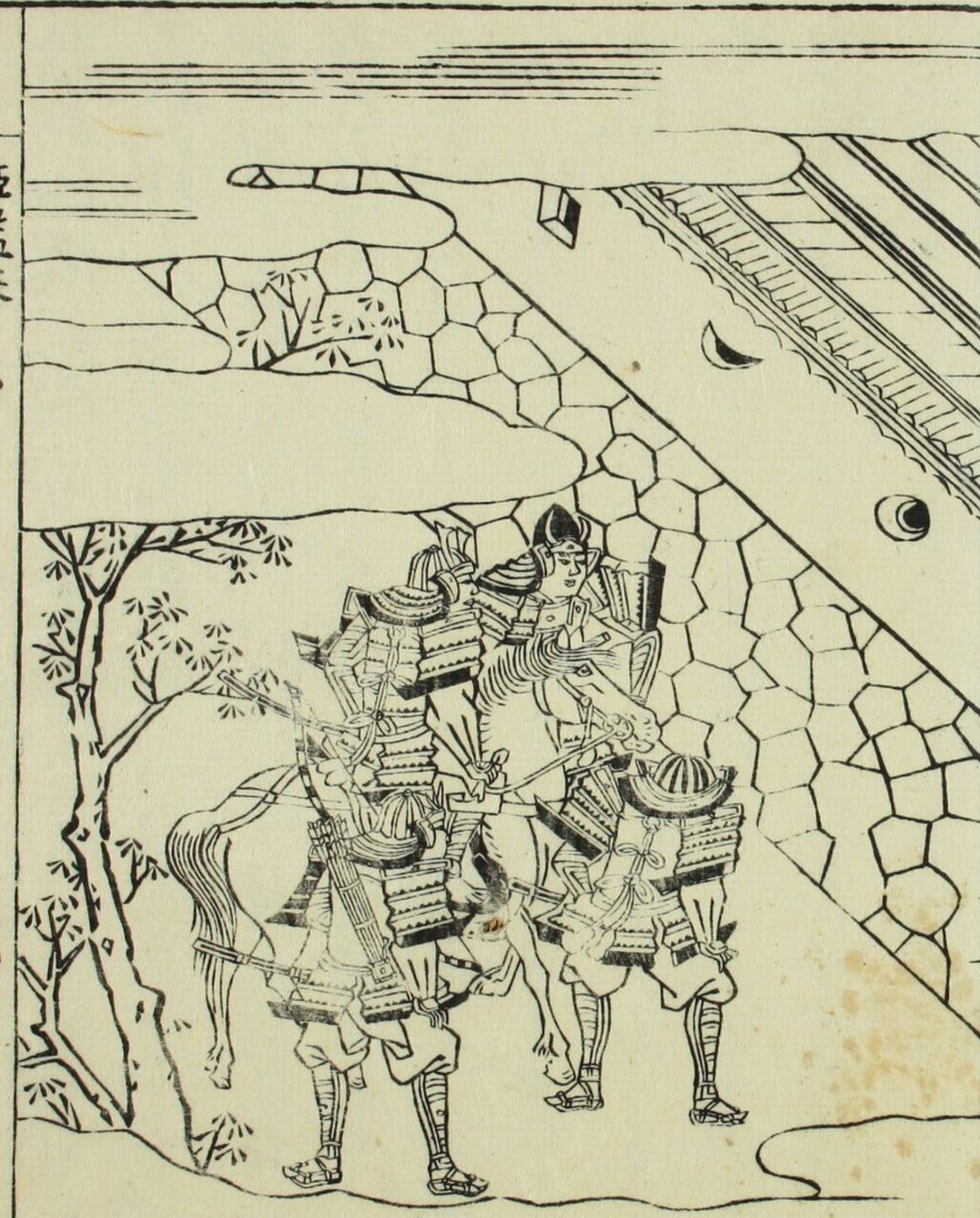
いさむの才女はのまに乃す急なり

こがむいしけしついでに才橋ついでに媛ついでにといきりハ日中武のさるれ  
 妾尾浪の玉徳ついでに狭ついでに氏ついでに忠ついでに君ついでに孫ついでにのむとあがり系ついでにゆを  
 白皇ついでに十年ついでによ赤ついでに玉ついでにの志ついでにむとま令ついでに下ついでによそむとて人ついでに氏と  
 かわまついでにくねついでにハ天ついでに會ついでにこまついでにあやついでにるついでにあついでにめついでにくついでにさついでにが  
 たりよ女軍と所ついでにじきついでにくれついでにそのついでにほついでに子ついでに日ついでに中ついでに武ついでにのついでにさついでにるついでにを  
 大ついでに女ついでに軍ついでにとついでにてついでにいついでにはついでにばついでにらついでにるついでに界ついでに城ついでにとついでにらついでにづついでにけついでにさせついでにあついでにふ  
 するついでにらついでにづついでに存ついでに勢ついでにのついでにちついでに神ついでにさついでにまついでにまついでにつついでにりついでにてついでに良ついでに相ついでにとついでにすついでになついでに

うりそれより後河のまよひて西織とららる  
 海一あふくよお換乃まよひのあまたりて上総のまへた  
 一いつせんともくまへくはるはる海づくとまやした  
 まじくふとらひた海ふまらとどりてまよひなむし  
 と高きしてころしあまひたつがむかちまよてあつた  
 風おくり波あがりてはまたしむくつあまのし  
 と大橋たしつり援たすけはともふまよらたすみおかくまよまよとま  
 け波風かうもたてこふゆとまよくあまの海津のあ  
 ゆららあふべしねぐくはるのまよと海ついでて  
 君のほりれらとあがなむまよらるまよつひまお念

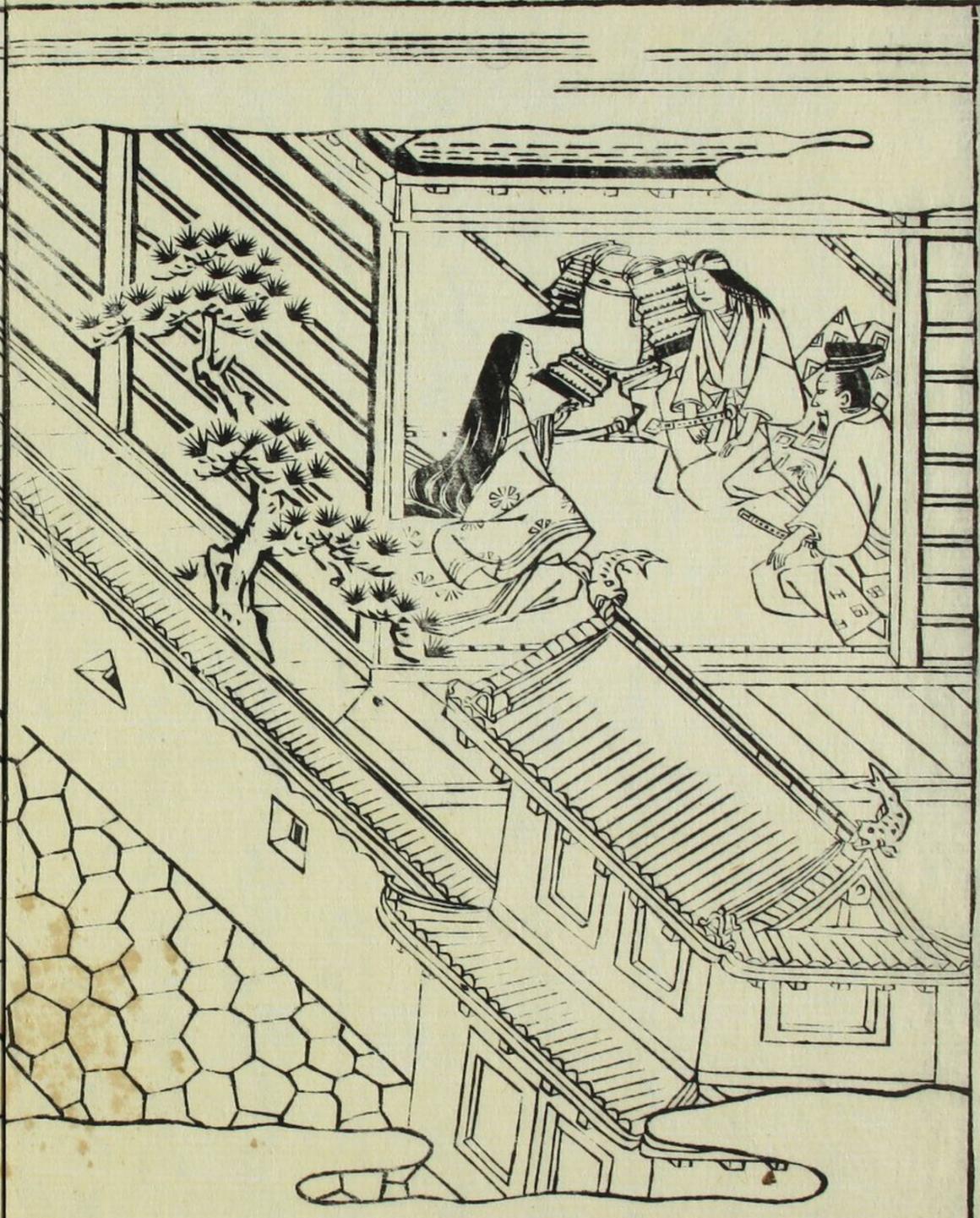
あまの海とあまけりてつりぬかきまよふ波風すかむら  
 ちのまより海あまらとわけてまよつとまよひありあま時  
 の人ひ海とまつめて地まらとつりまよむまよひゆり  
 てのちまよらるせたまよひまららるこのまよとまよひて  
 うあまのたまよまよあまらるまよ甲斐乃まよひまよ  
 とまよとまよくおたれまよのまよのまよよりまよまよつた  
 とまよのまよぬまよりまよらるまよらるまよらるまよ  
 昔むかしまよらるまよらるまよらるまよらるまよらるまよ  
 山東のまよまよまよあづまらるまよらるまよらるまよ  
 けしかき唯ただ明あきら天あま命のみことの妃まへは和わ海うみのまよまよとらあ  
 けしかき唯ただ明あきら天あま命のみことの妃まへは和わ海うみのまよまよとらあ

臣  
金  
卷  
一



臣  
金  
卷  
一

臣  
金  
卷  
一



臣  
金  
卷  
一

長月和珪臣深目がむらあがりもきたる来ぬらよ  
 こは久もうとまらむとあへつたゆしては月大娘會  
 かどうとほとせとふみこころをたすいては  
 りいんはほふとやふとせぬらりてよありを  
 たちあつらひしよりむらぶふくぬいせすりつりと  
 人これすけりふりて空如と酔したまふすかららる  
 女君よあむとせまむしけれとていひ  
 うららとつとひよとつとあどくしてゆめらねめ  
 うはらよのころり人ぞうむむとあむらむられ  
 こもどしたららとむねとてのりひいりい海のい

丁つねくらのみどえ妃のうもてまつりける白髪  
 白髪よと宮主たまふもてなまはせられ妃若梅稚姫の  
 むらら室川の宮主のうとつとつとあけりりけるを  
 つとつとあくまをたすいられ侍梅のうをたすいりつと  
 こい群臣よみやらりしてはいもつとけいせよとせれ  
 のらぶもつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 むららはららてまなむとあけよむらなれむらなせよ  
 まらりしてつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 せつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 らぶとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと



お軍どののまがし一た是よぞとせてとわのこことわきと  
 船らてふとやとるたは城すのくまわりよむじさびしかり  
 くよとれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
 空門のまよふおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
 よき女君のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 るとまりおれおれの父君は御座居候とのらりりりりりりりり  
 こつたれば空門よらりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 て海より入るぞかしけりよと人おれおれおれおれおれおれ  
 おとぎとておれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
 是らおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
 空門のまよふたは度母たればらのおれおれおれおれおれ  
 おやこはらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 殺ららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 と殺ららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 かおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
 魚玉のこころをなかりあんなのおけりりりりりりりりりりりりり  
 せららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 せららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 ひりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 錦明と望九十年よあつちのうらまぬ美乃えむとと

空門のまよふたは度母たればらのおれおれおれおれおれ  
 おやこはらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 殺ららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 と殺ららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 かおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
 魚玉のこころをなかりあんなのおけりりりりりりりりりりりりり  
 せららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 せららりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 ひりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 錦明と望九十年よあつちのうらまぬ美乃えむとと



されどもて城をとりてさへいして先程のふとけが  
 したるうらみのなほ残れまどのうらもれとかりたまふ  
 ぬ一矢をよむとけいほくしてのち終の居いざつてん  
 うらりもやういそくならざるうらもれなりほのふら  
 うらとくひもてほをとりて形もどく屋もどくどくの  
 道程もどくかどきてちう十浪波とてわり女房はす  
 たぬくゆづらとさふいあつてい程ももたれよ同いほ  
 ーいりよいさうて又終とわりてあらあがりおらぬ  
 つらほらのゆめをてうららびらうのよはくくわいよ  
 て城の軍兵が成りかへりかわりとありいーうらへ

ちうらりぞけーとちうらよめとちうらわいうら軍兵もいあり  
 まりよめれど形もいよくらうらとるいよらちうら  
 ぶとあつてうらはわいさふいよの長とけりて色  
 もりいよふらわりたれふあはれあはれぬくあつて  
 うらいーさうさうなり唐の楊姫婦とらわらもて  
 ほうらうらふらうらぬくー  
 相換のふとけい帝室平が裏いよのじやれつてい  
 うらあつてあつてあつてと部の男もつなよこら  
 ともちてほいひたれバいさうらあつてあつてい  
 てかわらゆもさうさうふらふら平あつていさうら

一、<sup>一</sup> 支那の政治は、<sup>二</sup> 封建的である。封建的とは、<sup>三</sup> 天子が天下を治め、<sup>四</sup> 諸侯が天子に仕え、<sup>五</sup> 諸侯はまたその下で諸大夫を治め、<sup>六</sup> 諸大夫はまたその下で諸士を治め、<sup>七</sup> 諸士はまたその下で諸庶民を治める。

二、<sup>一</sup> 支那の歴史は、<sup>二</sup> 非常に古い。殷の朝は、<sup>三</sup> 紀元前17世紀に始まり、<sup>四</sup> 周の朝は、<sup>五</sup> 紀元前11世紀に始まり、<sup>六</sup> 秦の朝は、<sup>七</sup> 紀元前221年に始まり、<sup>八</sup> 漢の朝は、<sup>九</sup> 紀元前206年に始まり、<sup>十</sup> 唐の朝は、<sup>十一</sup> 紀元前618年に始まり、<sup>十二</sup> 宋の朝は、<sup>十三</sup> 紀元前960年に始まり、<sup>十四</sup> 元の朝は、<sup>十五</sup> 紀元前1271年に始まり、<sup>十六</sup> 明の朝は、<sup>十七</sup> 紀元前1368年に始まり、<sup>十八</sup> 清の朝は、<sup>十九</sup> 紀元前1644年に始まり、<sup>二十</sup> 中華民国は、<sup>二十一</sup> 紀元前1912年に始まり、<sup>二十二</sup> 中華人民共和国は、<sup>二十三</sup> 紀元前1949年に始まり、<sup>二十四</sup> 台湾は、<sup>二十五</sup> 紀元前1945年に始まり、<sup>二十六</sup> 香港は、<sup>二十七</sup> 紀元前1997年に始まり、<sup>二十八</sup> 澳門は、<sup>二十九</sup> 紀元前1999年に始まり、<sup>三十</sup> 現在に至る。

三、<sup>一</sup> 支那の文化は、<sup>二</sup> 非常に豊かである。孔子は、<sup>三</sup> 紀元前551年に生まれ、<sup>四</sup> 孟子は、<sup>五</sup> 紀元前372年に生まれ、<sup>六</sup> 老子は、<sup>七</sup> 紀元前604年に生まれ、<sup>八</sup> 墨子は、<sup>九</sup> 紀元前478年に生まれ、<sup>十</sup> 荀子は、<sup>十一</sup> 紀元前313年に生まれ、<sup>十二</sup> 韓非子は、<sup>十三</sup> 紀元前280年に生まれ、<sup>十四</sup> 司馬遷は、<sup>十五</sup> 紀元前135年に生まれ、<sup>十六</sup> 王充は、<sup>十七</sup> 紀元前27年に生まれ、<sup>十八</sup> 蔡倫は、<sup>十九</sup> 紀元前60年に生まれ、<sup>二十</sup> 張衡は、<sup>二十一</sup> 紀元前78年に生まれ、<sup>二十二</sup> 華佗は、<sup>二十三</sup> 紀元前145年に生まれ、<sup>二十四</sup> 孫思邈は、<sup>二十五</sup> 紀元前581年に生まれ、<sup>二十六</sup> 沈括は、<sup>二十七</sup> 紀元前1031年に生まれ、<sup>二十八</sup> 朱熹は、<sup>二十九</sup> 紀元前1130年に生まれ、<sup>三十</sup> 王陽明は、<sup>三十一</sup> 紀元前1472年に生まれ、<sup>三十二</sup> 顧炎武は、<sup>三十三</sup> 紀元前1613年に生まれ、<sup>三十四</sup> 黄宗羲は、<sup>三十五</sup> 紀元前1610年に生まれ、<sup>三十六</sup> 顧炎武は、<sup>三十七</sup> 紀元前1613年に生まれ、<sup>三十八</sup> 孫中山は、<sup>三十九</sup> 紀元前1866年に生まれ、<sup>四十</sup> 毛澤東は、<sup>四十一</sup> 紀元前1893年に生まれ、<sup>四十二</sup> 鄧小平は、<sup>四十三</sup> 紀元前1919年に生まれ、<sup>四十四</sup> 江沢民は、<sup>四十五</sup> 紀元前1926年に生まれ、<sup>四十六</sup> 胡錦濤は、<sup>四十七</sup> 紀元前1929年に生まれ、<sup>四十八</sup> 習近平は、<sup>四十九</sup> 紀元前1953年に生まれ、<sup>五十</sup> 現在に至る。

四、<sup>一</sup> 支那の地理は、<sup>二</sup> 非常に広大である。北には、<sup>三</sup> 大漠があり、<sup>四</sup> 東には、<sup>五</sup> 太平洋があり、<sup>六</sup> 南には、<sup>七</sup> 南シナ海があり、<sup>八</sup> 西には、<sup>九</sup> 中央アジアがあり、<sup>十</sup> 現在に至る。

一、<sup>一</sup> 支那の政治は、<sup>二</sup> 封建的である。封建的とは、<sup>三</sup> 天子が天下を治め、<sup>四</sup> 諸侯が天子に仕え、<sup>五</sup> 諸侯はまたその下で諸大夫を治め、<sup>六</sup> 諸大夫はまたその下で諸士を治め、<sup>七</sup> 諸士はまたその下で諸庶民を治める。

二、<sup>一</sup> 支那の歴史は、<sup>二</sup> 非常に古い。殷の朝は、<sup>三</sup> 紀元前17世紀に始まり、<sup>四</sup> 周の朝は、<sup>五</sup> 紀元前11世紀に始まり、<sup>六</sup> 秦の朝は、<sup>七</sup> 紀元前221年に始まり、<sup>八</sup> 漢の朝は、<sup>九</sup> 紀元前206年に始まり、<sup>十</sup> 唐の朝は、<sup>十一</sup> 紀元前618年に始まり、<sup>十二</sup> 宋の朝は、<sup>十三</sup> 紀元前960年に始まり、<sup>十四</sup> 元の朝は、<sup>十五</sup> 紀元前1271年に始まり、<sup>十六</sup> 明の朝は、<sup>十七</sup> 紀元前1368年に始まり、<sup>十八</sup> 清の朝は、<sup>十九</sup> 紀元前1644年に始まり、<sup>二十</sup> 中華民国は、<sup>二十一</sup> 紀元前1912年に始まり、<sup>二十二</sup> 中華人民共和国は、<sup>二十三</sup> 紀元前1949年に始まり、<sup>二十四</sup> 台湾は、<sup>二十五</sup> 紀元前1945年に始まり、<sup>二十六</sup> 香港は、<sup>二十七</sup> 紀元前1997年に始まり、<sup>二十八</sup> 澳門は、<sup>二十九</sup> 紀元前1999年に始まり、<sup>三十</sup> 現在に至る。

三、<sup>一</sup> 支那の文化は、<sup>二</sup> 非常に豊かである。孔子は、<sup>三</sup> 紀元前551年に生まれ、<sup>四</sup> 孟子は、<sup>五</sup> 紀元前372年に生まれ、<sup>六</sup> 老子は、<sup>七</sup> 紀元前604年に生まれ、<sup>八</sup> 墨子は、<sup>九</sup> 紀元前478年に生まれ、<sup>十</sup> 荀子は、<sup>十一</sup> 紀元前313年に生まれ、<sup>十二</sup> 韓非子は、<sup>十三</sup> 紀元前280年に生まれ、<sup>十四</sup> 司馬遷は、<sup>十五</sup> 紀元前135年に生まれ、<sup>十六</sup> 王充は、<sup>十七</sup> 紀元前27年に生まれ、<sup>十八</sup> 蔡倫は、<sup>十九</sup> 紀元前60年に生まれ、<sup>二十</sup> 張衡は、<sup>二十一</sup> 紀元前78年に生まれ、<sup>二十二</sup> 華佗は、<sup>二十三</sup> 紀元前145年に生まれ、<sup>二十四</sup> 孫思邈は、<sup>二十五</sup> 紀元前581年に生まれ、<sup>二十六</sup> 沈括は、<sup>二十七</sup> 紀元前1031年に生まれ、<sup>二十八</sup> 朱熹は、<sup>二十九</sup> 紀元前1130年に生まれ、<sup>三十</sup> 王陽明は、<sup>三十一</sup> 紀元前1472年に生まれ、<sup>三十二</sup> 顧炎武は、<sup>三十三</sup> 紀元前1613年に生まれ、<sup>三十四</sup> 黄宗羲は、<sup>三十五</sup> 紀元前1610年に生まれ、<sup>三十六</sup> 顧炎武は、<sup>三十七</sup> 紀元前1613年に生まれ、<sup>三十八</sup> 孫中山は、<sup>三十九</sup> 紀元前1866年に生まれ、<sup>四十</sup> 毛澤東は、<sup>四十一</sup> 紀元前1893年に生まれ、<sup>四十二</sup> 鄧小平は、<sup>四十三</sup> 紀元前1919年に生まれ、<sup>四十四</sup> 江沢民は、<sup>四十五</sup> 紀元前1926年に生まれ、<sup>四十六</sup> 胡錦濤は、<sup>四十七</sup> 紀元前1929年に生まれ、<sup>四十八</sup> 習近平は、<sup>四十九</sup> 紀元前1953年に生まれ、<sup>五十</sup> 現在に至る。

四、<sup>一</sup> 支那の地理は、<sup>二</sup> 非常に広大である。北には、<sup>三</sup> 大漠があり、<sup>四</sup> 東には、<sup>五</sup> 太平洋があり、<sup>六</sup> 南には、<sup>七</sup> 南シナ海があり、<sup>八</sup> 西には、<sup>九</sup> 中央アジアがあり、<sup>十</sup> 現在に至る。



ろれびよとらわれればたゞとわもたげつたをば  
 がばいものもはらひつゝとていふものありしが  
 年々いふもぬれてもまゝいひたつてあつて  
 上書しつゝ年々いふもいふもいふもいふもいふも  
 ういふもいふもいふもいふもいふもいふも  
 ぞくぞくいふもいふもいふもいふもいふも  
 肥の<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と  
 病が<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と  
 かりよけられたけしむとくふりて安んずる  
 しくとく軍兵もいふとくふりて安んずる

ちかひけつたて年々いふもいふもいふも  
 お列よあつていふもいふもいふもいふも  
 せうとていふもいふもいふもいふも  
 かりよけつたて

年の<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と<sup>い</sup>と  
 ちかひけつたて年々いふもいふもいふも  
 お列よあつていふもいふもいふもいふも  
 せうとていふもいふもいふもいふも  
 かりよけつたて

如鑑

七

ついでに副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...  
あつて副将もいふ所は...

女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...  
女房もいふ所は...

如鏡卷十九

三十一









欲討のこころしきりてはつとてあつてはめり  
 よむかぐへしつとてあつてはつとてあつては  
 もりりてしつとてあつてはつとてあつては  
 りあつてはつとてあつてはつとてあつては  
 も欲よつとてあつてはつとてあつては  
 わつとてあつてはつとてあつてはつとてあつては  
 じ城つとてあつてはつとてあつてはつとてあつては  
 ゆつとてあつてはつとてあつてはつとてあつては  
 けつとてあつてはつとてあつてはつとてあつては  
 かがのつとてあつてはつとてあつてはつとてあつては

